学習・学校生活に困り感を感じたら・・・。

笑顔☺つなぐツール

～個別の教育支援計画の活用～

お子様が学習や学校生活につまずきを感じた場合、お子様が一人で悩んだり、保護者が悩みを抱え込んだりしないように学校も一緒に考えていきます。



保護者の困り感　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　学校での困り感



【例】

・忘れ物が多い。

・友人関係で悩むことが多い。

・学習への理解でつまずきが見られる。

【例】

・忘れ物が多い。

・片付けができない。

・集中力がない。

個別の教育支援計画

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　☆目標に合わせて

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　適切なサポート☆

※「個別の教育支援計画」とは・・・。

困り感のある子どもたちのためのサポートシステムの一つです。



・保護者と教員が子どもの困り感を共有し、目標を立て、全教員で適切な支援を行っていきます。

・幼稚園・保育所から小学校、中学校、高等学校、さらにはその後の教育や就労など、生涯にわたる適切な支援を継続する上で役に立ちます。また、このシステムは、必要に応じて次の学年や進学先に引き継ぐこともできますし、終了することもできます。

・進学の際の受験の合否には、影響はありません。

【支援の例】

・必要に応じて、専門職や外部機関とも連携して相談

を行います。

・一人一人に応じた適切な支援を考えていきます。

たとえば・・・。

・集団の中での配慮した指導

・学習内容の調整

・生活面を含めた指導

・いじめや差別を許さないための周囲の子どもへの

指導 など

【目標の例】

・提出物や宿題などの忘れ物をなくす。

・身の周りの整理整頓を自分で行う。

・友達と円滑なコミュニケーションをとれるようにする。

・基本的な四則の計算（足し算、引き算、かけ算、割り算）ができるようにする。

「個別の教育支援計画」を作成した保護者の声



家庭訪問の際に、担任の先生と子どもの困り感や、将来身につけたい力について話し合いました。「忘れ物をしない」という目標に対して、自分が毎日子どもと一緒にチェックを行うことで、子どもがよい方向へ変化をしており、いい傾向だと思います。

また、担任の先生と親が一緒になってサポートする姿勢を子どもが感じ取り、子どもの意識が上がってきました。「個別の教育支援計画」を作成したことで、担任の先生と保護者との共通理解ができ、手立てを考え、支援を一緒に行うことが、子どもの成長につながることを実感しています。また、親と子の親密感も増しました。(上五島在住)

Kamigotou